

平成26年度 第4回石巻市震災復興推進会議 会議録

1 日 時 平成27年1月31日(土) 10:00~12:35

2 場 所 石巻市役所 庁議室

3 出席者 【委員】16名(別紙参照)
【市】市長、各部長、各総合支所長、関係部次長課長等、
事務局(復興政策課)
【オブザーバー】(別紙参照)

4 会議概要

(1) あいさつ(会長)

- ・この会議も回を重ねるごとに、単に市からの一方的な説明や委員からの意見・要望だけでなく、実質的な議論のキャッチボールができ、共通理解が深まってきている。
- ・時間的な制約からすべてのテーマを扱うことはできないが、皆様からの忌憚のない意見を伺いたいので、よろしくお願いします。

(2) 議 事

ア 提案等に対する取り組み状況等について【資料1】(説明:復興政策課長補佐)

【会長】

資料3の「5. 地盤沈下・浸水被害の防除」「7. 半島中心部の拠点整備」と重複する部分については、次第の3-(2)意見交換時に質問等をお願いしたい。
それ以外について質問等がありましたら、挙手願います。
(→質疑等なし)

イ 復興事業スケジュールについて【資料2】(説明:復興政策課長)

【委員】

各事業のスケジュールについて、住民はいつ終了するのかを気にしているので、過ぎてしまった平成24~26年度のよりも、書きにくいのかもかもしれないが、平成27~29年度の幅を広くして、どの時期に完了するのかを書いていただけると分かりやすいのではないかと。

【復興政策課長】

ご指摘のとおりです。今後、修正していきたい。

【委員】

市民の間では「復興のスピードが遅い」という意見が多い。一方で、市が出した雨水排水計画の新聞一面広告を10人中8人が見ていない。市がいかんにして伝

えようとしているか悩んでいるのがよく分かる。例えば、市民の関心が高い災害公営住宅については、半年以内に完成・入居開始するところを市役所の1階などで大々的にお知らせするなど、とにかく市民に伝わる方法を検討してほしい。

【復興政策課長】

市民に対する情報発信のあり方については、ご指摘のとおり、大きな課題の一つであり、現在、模索しているところです。現在、広く情報を発信する施設として情報交流館を着工中なので、この施設を活用しながら情報発信のあり方を考えていきたい。

【委員】

職場を活用するという方法を提案したい。この会議での資料や情報を社長から社員に、さらにそこから家族へ伝われば、関心が高まっていくのではないか。

【復興政策課長】

この会議の資料は公開可能なものなので、是非とも活用していただきたい。

【会長】

市の情報発信については、以前から何度も取り上げられていて、難しいことも理解している。市としては、どの辺りを問題と捉えているのか。これからは、面白い関心の高い情報が増えていくので、情報発信がしやすくなるのではないか。

【復興政策課長】

情報発信で難しいのは市民のニーズが一樣でないこと。ニーズに合わせた情報発信をどのように行うべきか悩んでいる。

【委員】

市は今までのやり方ではなく、発想の転換を意識してほしい。市民も市報も見ないで文句ばかり言うが、市も文書をだすだけでなく、住民サイドに飛び込んで意見を聞くべきである。住民サイドに立って住民意識を喚起するように、行政と住民が協働していくべきではないかと思う。

【委員】

例えば、歩道の除雪は市民の協力ができない。住民が主体となって協力できるような効果的な方法を考えてほしい。

【会長】

行政と住民がお互いに積み上げて進めていくことが確かに重要です。

【委員】

復興住宅については着工済以外のところはイメージ図もなく、全く分からない状況なので、目に見えるものを早く出してほしい。この状況では、本当に4千戸の公営住宅が埋まるのか、完成まで待ちきれない人が別のところに移ってしまうのではないかと心配である。

中瀬公園はワークショップも開催され絵も出てきた。石巻の「顔」として、市民の知恵を集めて誇りを持てるものにしていきたい。

【復興事業部長】

復興住宅の情報について、事前登録者については整備時期、場所、建物のイメージ図をご案内している。当選者には入居3か月前に説明会、顔合わせを開催している。また、残念ながら入居が決定しなかった方には、今後の申し込みや空き状況などの案内を出している。

中瀬公園は、平成25年度からワークショップを開催し、行政による一方通行ではなく協働しながら進めることができている。今後も復興住宅や公園整備に限らず、ソフト面を含めたまちづくり全般についても協働して取り組んでいきたい。

【会長】

行政と市民が協働して進めていくことについては、具体的にまとめて、次回の会議に提案していただきたい。

ウ 震災復興基本計画実施計画について【別冊冊子】（説明：復興政策課長）

【委員】

復興財源措置が終了後の復興住宅の維持費などについては何か考えているのか。

【財務部長】

今後の維持管理に負担がかかるのは認識している。将来の公共施設のあり方については、今年度は施設ごとに耐用年数、維持管理費を委託で調査している。来年度以降は、調査結果を基に今後のあり方について計画し、後々、公表する予定である。

【委員】

復興の基本理念3の「絆と協働の共鳴社会づくり」について、震災後の行政批判が高まる中でも、行政と協働するように努めてきたが、たらい回しにあったり、提案自体を否定されたこともあるので、この理念のとおり協働できるようにしてほしい。

【復興政策部長】

確かに行政内部にも協働の意識が弱い部署もあるかもしれないし、提案内容にも問題があるのかもしれないが、お互いに意識改革しながら取り組んでいきたい。

エ 地盤沈下・浸水被害の防除（説明：建設部次長）※追加資料あり

地盤沈下・浸水被害の防除（半島・沿岸部）（説明：復興政策部長）

【委員】

浸水被害については、該当地区の町内会との意見交換、迅速な情報公開を行い早期に解決できるようにしてほしい。

【建設部次長】

浸水だけでなく、それ以外の課題についても町内会と意見交換をしていきたいと思う。

【会長】

解決が難しい根本的な問題もあるが、そのなかでどのように解決していくか、

住民と行政が一緒に考え、密になるチャンスになるのではないかと思います。

【委員】

排水関係の工事費用はかなりの額になると思うが、URや下水道協会だけでなく、地元業者を活用して雇用や所得の好転につながるようにしてほしい。

【総務部長】

地元業者の活用については、今年度の入札参加資格登録の申請時や契約締結時に地元業者及び地元製品の活用についての周知を図りたい。

【市長】

下水道協会にはこれまでに何度もお願いをしているところであるので、ご理解いただきたい。

【委員】

市街地は0m地帯であることは震災前から変わらない。排水問題については、地下に巨大なタンクを建造する等根本的な考え方を確立して解決してほしい。

【市長】

ご指摘いただいた、地下に貯水能力を持たせることについては、今回の計画では中央排水路は直径4.2m、延長1kmで約1万2千トンが貯水できるようになっているが、長期的にはさらに貯水能力を高めながら排水対策ができるようにしていきたいと思う。ご指摘ありがとうございました。

オ 複合文化施設の整備（説明：教育委員会事務局長）

【委員】

将来的に宝の持ち腐れ、禍根を残さないよう、引き続き十分議論をし尽くして、多くの市民が利用してもらえるようなものを建ててほしい。

【委員】

大きな施設を作る場合、その前提となる大きな目的があってしかるべきではないか。石巻は水産都市であることも構想に加味してほしい。

【教育委員会事務局長】

ご指摘の箇所は石巻の文化なので、博物館の展示スペース等で活かせるように検討していきたい。

カ 半島中心部の拠点整備について

（説明：雄勝総合支所長、北上総合支所長、牡鹿総合支所長）

【委員】

雄勝中心部地区の課題の解決策に「地域住民の方々と共検討」、また、主な課題に「地域の方々が主役となって街づくりを行う」とあるが、計画段階から利用者である住民を巻き込む必要があるのではないのか。

【雄勝総合支所長】

現在、基本計画について地域の方々の意見を聞きながら取り組んでいるが、今

後は各々の団体が同一の場で話し合う組織の設立を検討している。

【委員】

雄勝の宝は硯。筆、紙、墨と併せて発信していきたい。地域からの声を吸収し、水産・養殖だけでなく農業を応援する跡地利用を期待したい。

北上の宝はヨシ原。ヨシを活かした地域づくりに期待したい。

鮎川地区は金華山。観光がピーク時の60万人から10万人に落ちてきているが、団体客用の船について協議したい。また、鯨の伝統文化も守っていけるような整備に期待する。

【委員】

以前、北上を視察した際に、にっこり団地が買い物に不便な場所のように感じたが、スーパー等を誘致する予定はあるのか。

【市長】

北上地区は、にっこり、白浜海水浴場、フィールドミュージアムが連携したまちづくりとなっている。にっこりは高台なので、その中に買い物ができるような機能を持たせたい。また、フィールドミュージアムにも商業施設が入る予定である。

【会長】（まとめ）

様々な計画について、市と地域のやり取りが少ないように感じられたので、町内会などでも積極的に関わるようにしてほしい。また、市も地域の意見をレールに乗せる仕組みを構築してほしい。なお、委員からご提案いただいた「袋谷地地区への架橋」については、次回、議論することになります。

(3) その他

【事務局】

今後の開催予定・提案（意見）書について説明

(4) あいさつ（副会長）

- ・ 復興の情報をお知らせする情報交流館を作っているが、ソフト面が重要になってくる。運営については、皆様の意見を積み重ねながら、いいものを作っていきたいと思う。
- ・ 復興を進めていくには、行政、市民、そして専門家の連携が非常に重要なので、引き続きよろしく申し上げます。

以上

別紙

【出席委員16名】

氏名	所属	備考
阿部洋子	石巻市民生委員・児童委員協議会 会長	
伊藤和男	特定非営利活動法人石巻市体育協会 会長	
大槻幹夫	河北地区住民代表	
尾形和昭	株式会社街づくりまんぼう 代表取締役副社長	
小野田泰明	東北大学大学院工学研究科 教授	副会長
兼子佳恵	環境と子どもを考える会 代表	
後藤宗徳	社団法人石巻観光協会 会長	
西條允敏	石巻市文化協会 会長	
馬場利一郎	石巻市身体障害者福祉協会 会長	
藤井勝	貞山三・四・五丁目自主防災会 会長	
松川孝行	いしのまき農業協同組合 代表理事組合長	
丸岡章	石巻専修大学理工学部特任教授、東北大学名誉教授	会長
山崎信哉	石巻仮設住宅自治連合推進会 名誉会長	
増田敬	石巻仮設住宅自治連合推進会 会長	
吉田忠美	石巻市町内会連合会 会長	
吉田祐二	石巻市社会福祉協議会 事務局次長兼総務課長 兼ささえあいセンター事業副総括	

【欠席委員7名】

氏名	所属	備考
浅野亨	石巻商工会議所 会頭	副会長
渥美克之	牡鹿地区住民代表	
阿部力太郎	宮城県漁業協同組合 代表理事理事長	
久門俊勝	一般社団法人石巻市医師会 副会長	
佐々木文彦	北上地区住民代表	
高橋和子	河南地区住民代表	
吉田薫	雄勝地区住民代表	

オブザーバー

宮崎潤太 復興庁宮城復興局 石巻支所